実用化技術情報

桑新品種「きぬゆたか」の古条挿し法による桑園造成技術

福島県蚕業試験場 栽桑部
平成7～12年福島県蚕業試験場年報
分類コード　09-01-01070000

部門名 蚕糸―栽桑―品種・移植
担当者 土井則夫

Ⅰ 新技術の解説

1 要旨

福島県で育成された桑新品種「きぬゆたか」は種苗法により平成13年10月に品種登録された。本品種には発根が良いという特性があることから古条挿し法による桑園造成技術の確立をした。作業の手順は次のとおりである。

① 母樹の栽培　樹齢は 4 年目以降(表 1)、収穫法は春切、無伐採(表 2)、肥培管理は窒素を抑え、リン酸およびカリを増やす。
↓
② 穂木の採取　時期は 3 月中旬～ 4 月中旬（年次、場所により気温に変動があるため、適宜時期の調整をする。）(表 3)、穂木は太く、充実 した枝条を選ぶ。
↓
③ 穂木の保存　枝条を 1m 前後にそろえ、25 本 1 束にし黒ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑで被覆、冷暗所に保存する。
↓
④ 挿し床準備　土壌を十分耕耘し、降雨があり土壌が十分湿った時にﾄﾚﾌｧﾉｻｲﾄﾞ粒剤を散布後、透明ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑで被覆する。
↓
⑤ 挿し穂調整　穂木を 3 芽付け約 15cm で切断し、下部切り口をｵｷｼﾍﾞﾛﾝ 3 倍液に数秒浸漬する。
↓
⑥ 挿し込み　時期は 4 月下旬(表 4)、ﾎﾟﾘﾏﾙﾁした挿し床に挿し穂を長さの 1/2 程挿し込む。野菜移植機を使用すれば作業時間が短縮される(表 5)。
↓
⑦ 施肥と除草　6 月下旬及び 8 月上旬の 2 回に分けて固形肥料で 150kg/10a 施用する。その後は雑草を抑えて桑の生育を助ける。

2 期待される効果

（1） 古条挿し法による桑園造成は、購入苗木による造成と比較して経費が大巾に安くなり(表6)、桑園の新改植が簡易に行うことができる(表5)。
（2） 苗木の育成期間は普通2年間を要するのに対し、当技術ではそれを要しないため、桑新品種「きぬゆたか」の普及が早く進む。

3 適用範囲

積雪地以外の地域

4 普及上の留意点

（1） 挿し穂の活着率を下げないように母樹の管理、穂木の取り扱い等に留意する。
（2） 10a当たり800本以下の植付けとする場合は、欠株率を補うため2本挿しとする。

Ⅱ 具体的データ等

表1　母樹の樹齢

樹齢	採取部位	活着割合 (%)
2年目	1	86
	2	70
	3	54
3年目	1	88
	2	90
	3	76
4年目	1	94
	2	86
	3	80

注）挿し穂を穂木基部から123と順次採り、調整した。

表2　母樹の収穫

母樹の収穫		採取部位	活着割合 (%)
春切	無収穫	1	92
		2	86
		3	76
		4	72
		5	70
	収穫	1	54
		2	46
		3	32
		4	20
		5	30
夏切	無収穫	1	98
		2	83
		3	57

注）挿し穂を穂木基部から123と順次採り、調整した。

表3　穂木採取時期

穂木採取時期	活着割合 (%)
2月15日	62
3月15日	82
4月15日	82

表4　古条挿し木時期

挿し木時期	活着割合 (%)
4月16日	52
4月25日	78
5月6日	68

表5　桑園造成作業時間（時間／10a）

造成法	耕耘	溝掘り	ポリマルチ	植付挿し込み	土寄せ	合計	同左指数
苗植付（手植え）	0.3	2.0	5.3	13.9	1.5	23.0	100
古条挿し法（手挿し）	0.3		5.3	3.3	1.6	10.5	45.7
古条挿し法（機械挿し）	0.3		5.3	1.1	1.6	8.3	36.1

表6　10a当たり必要苗木代の比較

苗木の種類	必要本数 (本/10a)	単価 (円)	合計 (円)
購入苗木	1,200	65.0	78,000
古条挿し穂木	1,200	5.9	7,080

Ⅲ その他

1 執筆者

土井則夫、菅野雅敏

2 その他の資料等

（1）東北蚕糸研究報告（1998）23,23.

（2）東北蚕糸研究報告（1999）24,7.